

話題 27 病院ホームページ開設時の院長あいさつ

国立病院機構の医療に対するご理解とご支援に対し感謝を申し上げます。

当院は戦後の混乱期に、蔓延する結核に対する診療・療養施設として昭和23年8月、米軍の占領下に沖縄民政府公衆衛生部金武保養院として創設されました。その後、琉球政府立金武保養院、国立療養所金武保養院、国立療養所沖縄病院、そして国立病院機構沖縄病院と名称の変更があり、その歴史そのものが沖縄の苦難の歴史を物語っております。

60年余の歳月が過ぎ、感染症の時代から生活習慣病の時代へと疾病構造の変遷がみられ、結核の診療から「がん」の診療へと大きな舵取りを余儀なくされたのが当院の歴史とも言えます。

独立行政法人への移行後の第一期中期計画において「外来化学療法室」「緩和ケア病棟」の開設、一般病棟をすべて「がん専門病棟」へと種別の変更を行いました。そして、職員意識改革の手段として ISO9001:2000 の認証を取得し、患者さまとご家族の立場に立った医療の提供に努めております。

第二期中期計画におきましては、結核・筋ジス・神経難病を含めた国の政策医療を担うとともに、沖縄県の地域医療の枠組みの中で「呼吸器センター」「神経・筋センター」、そして肺がんを中心とした「がんセンター」的役割を果たすべく体制を整えております。

多剤耐性結核対策を含めて、結核の撲滅まで沖縄県の結核診療の最終拠点としての役割を果たすとともに、その他の呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患、呼吸リハビリ等の呼吸器疾患全般の診療を展開します。

「神経・筋センター」は、筋ジス、ALS 等の神経難病対策と療養生活の質の向上を図るとともに、筋電図、脳波、MRI、RI 診断機器を駆使し神経・筋疾患全般の診断と治療を行います。

年間200余例の肺がん新患の診療が行われておりますが、胸腔鏡による手術、放射線治療、化学療法、緩和医療等と「がん」の集学的治療を行うとともに、臨床研究の活性化を図り、全国に発信できる研究とその質の向上を目指します。

病気は早期発見・早期治療が大原則です。年間約1000例の消化器内視鏡検査が行われ、リウマチを中心とした整形外科、肺ドック、アスベスト検診、禁煙外来、喘息外来、ピロリ菌外来等の専門外来に加えて、セカンド・オピニオン外来も開設しておりますのでお気軽にご相談ください。

ISO9001:2008 へと更新しました。地域の皆様方に信頼される病院を目指して、さらなる診療の質の向上に努めます。

2011年1月 沖縄の桜の季節に